J-net
熟年ネット・ひたち

熟年

「シニアライフを
心豊かに生きる」ために
「仲間、生きがい、ひたちを
愛する心」を大切に
「感謝し感謝される楽しい活動」

特集

Ｊ－ｎｅｔ 創設 25 年の歩み

平成７年に「ひたち生き生き百年塾」の組織として「熟年研究会」が発足し、平成13年に百年塾から自立、「熟年ネット・ひたち」（Ｊ－ｎｅｔ）と改称し、四半世紀を迎えた。当時、掛札優氏が代表世話人となり、15人のメンバーで発足。今も創設当時の活動理念が引き継がれ、今日に至っている。限られた紙面であるが、研究会発足に至る思いと主な歩みを紹介する。

熟年研究会発足の背景

「熟年研究会」発足後の翌年５月には会報創刊号が発行された。

会報に寄せられた掛札代表の挨拶文（抜粋）からＪ－ｎｅｔ創設に至る歩みを紹介する。

『この度、熟年研究会会報が創刊されることになり、百年塾関係者のご支援とご努力にお礼申し上げます。ご存知のように高齢化は急速に進んでおり、近い将来に極めて重要な問題になると容易に想像できます。この様な事態に対し、多くの方々は種々の準備をなされていますが、一方では会社を退職し「どう過ごしてよいか」悩んでいる方も少なくないと思います。熟年研究会では、このような方々と「定年後、楽しく過ごすために」を研究し、推進していきたいと考えています。』

故掛札前代表と「熟年研究会」発足の動機となった講演会

テーマ「充実した熟年を楽しむために」
平成６年 11 月

自主グループ（活動開始年）

会員数の増加で最盛期に９グループとなったが、独立や直近のコロナ禍で解散したグループもあり、現在５グループが活動中である。

- Ｊ－ｎｅｔ・オカリナハート（平成13年10月）
- ウオーク会（平成17年４月）
- Ｊ＆Ｂグループ（平成18年７月）
- 笛の会（平成21年４月）
- 河原子海岸清掃グループ（平成21年５月）

ハーモニーフレンズ初コンサート 平成８年７月

楽習会（24回／年開催）

平成８年度より年間計画を策定し、講座形式と屋外での見学や交流を通して学習活動を開始した。平成13年に**楽習会と改称**し、年間24回の活動を展開している。

第１回総会 平成 14 年４月

シニア講座（10講座／年）

平成12年度に第１回、平成19年度より日立市社会福祉協議会と共同開催で「シニア地域活動入門講座」を開講した。令和２年度はコロナ禍で中止としたが、計20回の開催で２７３人が受講した。

シニア講座 平成 19 年７月

その他 トピックス

社会貢献を高く評価され、数々の賞状をいただいた。また、マスコミにも取り上げられ、時代を先取りした活動の中から一端を紹介する。

NHK 取材「わだいの玉手箱」
平成 19 年 11 月

女性センター祭りに初参加 平成 14 年 10 月

県知事賞「グループピニオン」
平成26年10月

内閣府「社会参加活動事例」平成 16 年９月

Ｊ－ｎｅｔの今後に何を求めるか

Ｊ－ｎｅｔは感謝し感謝される楽しい活動を目指し、四半世紀が過ぎ「仲間、生きがい、日立を愛する心」を第一に活動し、心豊かに過ごし、地域社会からも一定の評価をいただいた。しかし、日立市の人口構成は大きく変わり、それに伴いＪ－ｎｅｔ会員の年齢構成も変化、活発に活動できる会員数が極端に少なくなってきました。

Ｊ－ｎｅｔは何をなすべきかを見つめ直し、選択と集中を図らざるを得ない時がきました。理念・理想を変えず進むか、現実路線で出来ることを地道に進めるかを問われる時となりました。負担の集中を避け、多くの人が参加できる活動の場を探っていきます。

（Ｊ－ｎｅｔ代表　山野　邦雄）

学 習 会

名曲鑑賞会　（8/6）

大きな声で歌う「歌声喫茶」が、新型コロナの３密を回避するため中止となり、代替として「名曲鑑賞会」が行われた。会員・会友から夫々の名曲を募集。その中から 24 曲選択。歌謡曲、映画音楽、スイングジャズなど、会員一人ひとりの心に残る思い出が詰まった大切な曲である。静止画と共に、曲にまつわるエピソードを紹介しながら進めた。

会員提供の音質の良い音響装置から曲が流れると、遠い昔に思いを馳せて目を閉じる人、照れ笑いの人、みんな懐かしい音楽に浸った。休憩のあと、イントロクイズを楽しみ、後半を再開した。美しい曲に会場が一体となり、連帯感に包まれた。

新型コロナの感染拡大により閉塞感が続く中、思い出の曲に癒され、励まされる貴重な時間を過ごすことができた。

参加者 28 人　　（細江 富美江）

工都・日立のルーツを学ぶ　（8/27）

昨年度から繰り越しとなった「工都日立のルーツを学ぶ」を「認定 NPO 法人・共楽館を考える集い」副代表の大畑美智子氏にご講話をいただいた。

講演に先立って、山野代表から講師の紹介と NPO の佐藤代表に活動内容の紹介をいただいた。

日立鉱山創業者・久原房之助は山口県萩市の出身で、大阪から秋田・小坂鉱山に赴き、挑戦した理想鉱山の夢を日立で実現すべく、赤沢銅山に入った。小坂勢と呼ばれた人脈を集め、苦心惨憺の末、小説や映画で描かれた東洋一の大煙突で公害を克服し、本山劇場や共楽館を創建するなど、日立市の産業と文化の発展の基礎を築いた足跡を熱く語られた。

また、幕末の時代背景や藤田伝三郎、井上馨などの長州人脈の影響、小坂町に現存する最古の木造の芝居小屋である「康楽館」の紹介 DVD も興味深かった。

続編の講座を期待する声も挙がり、好評であった。

参加者 30 人　　（長谷川 孝）

日立市の人口減少対策　（9/10）

日立市市長公室・地域創生推進課・課長補佐の瀧深秀一氏をお迎えし、日立市の人口減少対策についてご講演をいただいた。

全国の人口減少が続く中で、東京一極集中が続いている現状を是正する手段として地方創生制度が施行され、日立市では「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、第１期総合戦略を平成 27 年 12 月、第２期総合戦略を令和２年３月に策定した。

第１期総合戦略では、過去の人口変動に関するデータを分析し、2040 年を想定した人口目標値を 140,060 人（放置した時の推定人口 129,191 人）に設定し、対策を進めてきた。第２期では、第１期の結果を検証し、雇用の確保・創出、転入促進・転出抑制、子育て支援、安心・安全なまちづくりを鋭意推進している。

参加者 30 人　　（桑名 勇兒）

井戸端会議（2）　（10/8）

今回は、急な気温低下と雨模様のせいか通常より参加者が少なかった。コロナ対策のために座席の間隔をあけ、４グループに分かれて話し合った。

その内、３グループでは高齢化と会員減少が進む J-net の今後のあり方について検討が必要との問題提起があった。そのほか、市立小中学校の再編計画の内容、GoTo キャンペーンや各種割引制度の活用、悪質商法やニセ電話への対応、コロナ禍での“巣ごもり”対応、自分の老いを自覚する事例、屋外での J-net の行事中止を避ける手立て、世のデジタル化移行の変化についていくために自助努力での勉強の必要性などが話題になった。　　参加者 26 人　　（平田 順一）

古典を学ぶ　（10/22）

茨城キリスト教大学名誉教授の堀江信夫先生をお迎えし「現代に生きる徒然草（美しく豊かな人生とは）」と題してご講演いただいた。

初めに、兼好法師は 1283 年から 1353 年まで南北朝時代を 70 歳ぐらいまで活躍し、「徒然草」は無常の文学であるとの講師の言葉が心に残った。コロナ禍の真っ只中にいる私たち、これまでの常識が通じない今、現代に通じる人生観があるように感じた。先生には短時間で盛り沢山の内容を分かりやすく解説いただいた。

今回の講演がもっと古典に興味を持ち、深く学ぶきっかけになることを期待したい。

参加者 33 人　　（片寄 須賀子）

自主グループ活動

河原子海岸清掃グループ　コロナ禍での活動

新型コロナウイルスの感染防止をしながらでも、やれることあるよね！「参加の機会がなくなり、ボランティアのモチベーションが落ちてしまうのではないかと心配している」と言う声もありますが、私たち河原子海岸清掃グループでは、月２回の清掃活動を続けています。

９月 11 日の活動では、海外ボランティア活動をしている男子高校生が来て、一緒に清掃活動に参加してくれました。

高校生はペットボトル、プラごみがどこの国から流れついたのか調べるため持ち帰りました。

砂浜に落ちているプラごみなどは、やがて河川や海に流れ込みます。海洋プラスチックごみは、海洋の環境を汚染するだけでなく、海の生態系にも影響を与えます。

ごみを減らすため、私たち自身が考え、行動しなければなりません。微力ではありますが、私たちグループはこれからも活動していきます。　（小林 信幸）

笛の会　コロナ禍を乗り越えて

私たち笛の会の練習は、交流センターで行っています。演奏するのに必要な楽譜は、メンバーがパソコンで作成しています。

「しおさい」で演奏を披露していたものですから唱歌・演歌が多く、ケーナの魅力であるフオルクローレの楽譜が少なく困っております。

早くコロナ禍が収まることを願い、皆さまの前で演奏出来るように努力していきます。

（小林 信幸）

Ｊネット・オカリナハート　定期練習を継続

コロナ禍により金沢交流センターでの月３回の定期練習は、出席人数の制限、入館時の体温測定、手指の消毒、各自パーティションを使用して続けている。

息を吹いて鳴らす楽器なので出前演奏もできず、練習にも張り合いが持てない状況であるが、新曲への取り組みや、より美しい演奏ができるようにメンバー全員気持ちをひとつにして乗り切りたい。（畑山 和子）

J&Bグループ　「J&B 教室」開催

子どもすくすくセンター主催の保護者向け講座「きらりんタイム」が９月 11 日、「Ｊ＆Ｂ教室」として、オカリナ演奏とママと楽しむミュージックケアの講座を開催しました。

今回は新型コロナ感染防止のため、人数制限があり、オカリナ演奏者として２人、受講者も４人の参加となりました。フォークソングを中心に、子ども向けの曲も取り入れるなどして、新鮮なプログラムを工夫しました。

オカリナ演奏では５曲を披露し、ミュージックケアでは、リズムに乗って簡単な身体表現をするなどして、若いお母さんたちと一緒に１時間ほど遊びました。また、お母さんたちには安心して楽しんでもらえるように、ベビーシッターもＪ＆Ｂから２人参加しました。

「コロナ禍の活動自粛のおり、子どもたちを見守っていただき、初めて聴くオカリナの音色やリズム体操で日ごろのストレスが解消され、楽しい時間を過ごせました」などの感謝の言葉をいただき、私たちも日ごろの活動を通して、少しでもお役に立てたことに喜びを感じています。　（小林 美津江）

インフォメーション

楽　習　会　（11～1月）

月/日	楽習テーマ	内　　容	場所
11/12	県政出前講座	県政を知り郷土の魅力を再発見する	女性センター
11/26	井戸端会議	J-net の今後を考える	
12/10	天気予報と防災	日立天気相談所のよもやま話	
12/17	年末交流会	コロナ禍で中止	―
1/14	賀詞交歓と新年を寿ぐ	新しい年をみんなで祝い、楽しむ	女性センター

※新型コロナウイルス感染状況により、予定が変更になる場合があります。

企画委員会だより（8～10 月）

主な審議事項

８月　1)「お岩神社を訪ねる」はコロナ禍により中止。
　　2) 非接触型体温計購入の提案があり検温はセンター側で行うため J-net としては購入しない。
９月　1) 永年活動表彰を会則 17 条に追加する。20 年から 15 年への提案あり、検討後再提案。
　　2) 11/26 の「神峰動物園を訪ねる」はコロナ禍により中止。井戸端会議に変更。
10 月　1) 表彰規定について 15 年への訂正内容で了承。
　　2) 11/26 井戸端会議では「J-net の今後を考える」について話し合う。

コロナ禍で想い、考えたこと（2）

●新型コロナウイルスの感染拡大で、日本国内でもトイレットペーパーの買占めやマスクなど医療用品の過度な海外生産品への依存が浮き彫りとなり、命を守る為に必要なものまで外国に命運を預けている現状に国民が唖然とした。今後は安易な海外生産展開でなく、取捨選択された物に限定して海外展開する方式へと転換する契機になったと思う。　（大園　哲夫）

●コロナ禍での目標と実績
①断捨離の実行（物置、台所の整理と衣料の破棄）
②体力維持運動（ウオーキング、鉄棒ぶら下がり）
③ゴルフ弱点克服（グリーンの手作りと練習）
④野菜作り（プランターの購入と野菜８種植え付け）
（山野　邦雄）

●今年２月クルーズ船で 712 人の新型コロナウイルス感染者が出て大騒ぎとなった。今までクルーズに４回乗っている。ダイヤモンドプリンセスは３回目に乗った船で、日本で製造され設備も日本人好みで、私共の趣向に合った船であった。今年の初めに、妻ともう一度、最後のクルーズを楽しもうと話していたが、残念ながら５回目の船旅は叶わなかった。　（帰山　芳夫）

●新型コロナ感染症は長引いても春先までと予測していた。今や世界中がパンデミックで感染者数、治療薬・ワクチン開発と話題に事欠かない状況である。ただ、５千万人が死亡したスペイン風邪もあり、医学の発達した現代でも予測のつかない感染症の歴史は繰り返されることを改めて痛感した。　（竹本　講治）

リレー随筆

「しおさい」での想い出　　福田　常実

今年、まだコロナ禍の始まる前だと思うが、J-net 会報の原稿のことで桑名さんから電話があった。その時最後に、これからの「しおさい」についての熱い話があった。桑名さんはいつも「しおさい」を大事にされていた。発起人の田岡さんの後を引き継いで何年も代表を務められ、近年は新しいメンバーの獲得に奔走して、２グループのうち、私の所属する木曜日組には特に気にかけてもらった。「しおさい」で使う備品の整備も最後まで面倒をみていただいた。「しおさい」の終了は残念だが、長い間お世話になり、とても感謝しています。

「しおさい」の活動は、年末年始の休日を除き年中無休で、毎週である。他のメンバーも含め良くぞ 16 年間続いたものと褒めてあげたい。施設の利用者さんたちの笑顔と、私たちを心待ちに待ってくれることが大きな原動力となった。グループ名の「ピニオン」は田岡さんが命名したと聞く。ピニオンとは機械用語で、歯数の少ない歯車である。小さい歯車が大きい歯車と噛合うことで大きな力を生むことになる。個人の小さい力でも、みんなが集まれば大きな貢献ができるということだ。

16 年間、施設とメンバーの皆さまに支えられながら、無事活動を終えられたことは人生の宝物である。

ありがとうございました。

【編集後記】ようやく再開した楽習会もマスク着用や３密回避で親しく懇談もできない状況に甘んじている。まだ参加を控えている会員もおられるようです。年末交流会の中止は残念ですが、新年の恒例イベントは工夫して開催できそうで楽しみです。

紅葉やコキア、案山子まつりなどのいつもの秋の景色は変わらないが、完全な終息は年を越しそうな上、これからはコロナだけでなくインフルエンザにも警戒が必要な時期になりました。いつもの春を待ちつつ、この冬を乗り切りましょう！　（編集子）

発　　行：熟年ネット・ひたち
代表　山野　邦雄
編　　集：広 報 グ ル ー プ
住　　所：〒316 - 0004
日立市東多賀町５-１-６
E-mail　：jnet-hitachi@ jneth.com
URL　　：http://jneth.com